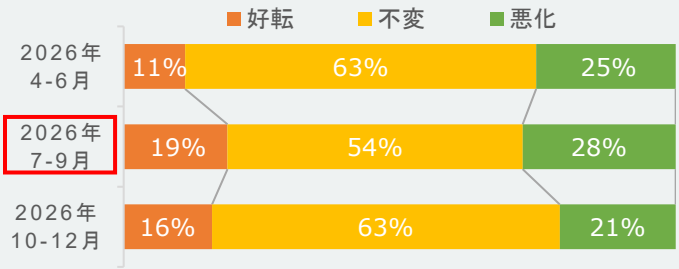
川崎商工会議所 中小企業景況調査 2026年7～9月期 調査結果

●調査対象 川崎商工会議所会員 80事業所 ●調査時期 2026年8月19日～9月6日

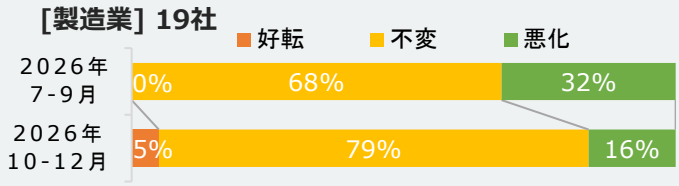
1 業況について

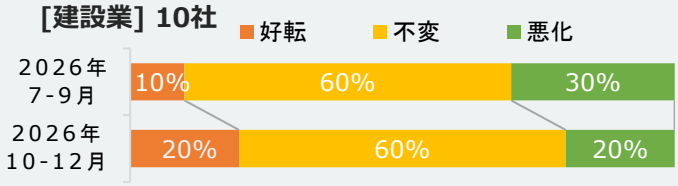
◆今期の業況は、全体では「不変」が５割を占めているが、「好転」と「悪化」がともに増加し、その差が広がっている。業種別では、小売やサービスで「好転」が３割と目立った一方、製造業では「好転」が見られなかった。また、「悪化」については、製造や建設では３割、卸売では４割にのぼっており、業種間によって業況の明暗が分かれている。

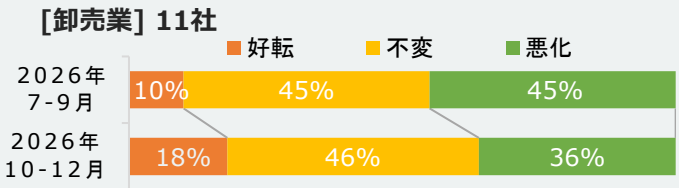
◆来期の業況は、全体では約6割が「不変」を見込んでおり、業種別では、製造、建設、卸売で「好転」が増加し「悪化」が減少しており、業況改善への期待が高まっている。一方、今期で好調だった小売やサービスでは「好転」が減少し、回復の勢いが鈍る見通しとなっている。

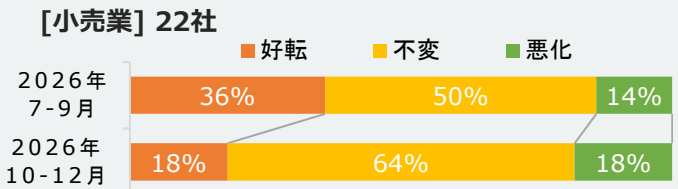


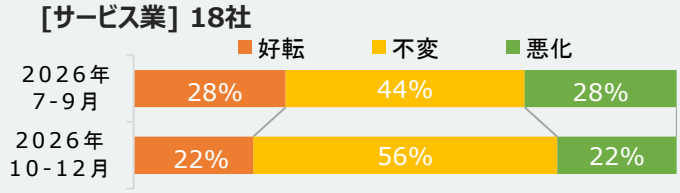
■業種別











2 設備投資について

[今期（2026年7月～9月）]

実施した：15% 実施していない：85%

＜実施内容＞



[来期（2026年10月～12月）]

計画している：7.5% 計画していない：92.5%

＜計画内容＞



3 経営上の問題点 [複数回答]

◆全業種で「原材料・仕入価格の上昇」といったコスト面の課題が上位を占めた。特に卸売では7割、建設とサービスでも4割、小売と製造でも3割が課題に挙げており、価格高騰が引き続き各業種の経営を圧迫している。
◆製造や卸売、小売では「需要の停滞」が上位にのぼった。また、建設では「人件費の増加」や「従業員・下請業者の確保難」、サービスでは「ニーズの変化への対応」が上位にあり、コスト高や需要低迷、人手不足など、多くの課題に直面している。

[製造業]

1位	原材料価格の上昇	32%
2位	需要の停滞	26%
3位	製品（加工）単価の低下・上昇難/従業員の確保難	21%

[建設業]

1位	材料価格の上昇	45%
2位	人件費の増加	27%
3位	従業員の確保難/下請業者の確保難	18%

[卸売業]

1位	仕入単価の上昇	70%
2位	需要の停滞	40%
3位	人件費の増加/人件費以外の経費の増加/その他（受注数の減少）	20%

[小売業]

1位	需要の停滞	41%
2位	仕入単価の上昇	36%
3位	人件費以外の経費の増加	27%

[サービス業]

1位	材料等仕入単価の上昇	44%
2位	利用者ニーズの変化への対応/人件費の増加/人件費以外の経費の増加	17%
3位	店舗施設の狭隘・老朽化/利用料金の低下/従業員の確保難/需要の停滞	11%

【調査】中小企業振興部 【報告書作成】企画広報部